

ADLスクリーニングテスト

氏名: _____ 様(_____ 才 男・女) 疾患名: _____ 障害部位 右・左(_____)

スクリーニング			Barthel index							
					記入日		年 月 日 記入者: _____			
年 月 日			項目	点数			記述	基準		
食事	使用手 道具	右手・左手 箸・スプーン・フォーク	食事	10			自立	皿やテーブルから自力で食物をとって、食べることができる。自助具を用いてもよい。食事を適当な時間内に終える。		
					5		部分介助	なんらかの介助・監視が必要(食物を切り刻む等)		
						0	全介助	全介助		
整容	洗面 口腔ケア 整髪 ひげ剃り 化粧		整容	5			自立	手と顔を洗う。整髪する。歯を磨く。髭を剃る(道具はなんでもよいが、引出しからの出納も含めて道具の操作・管理が介助なしにできる)。女性は化粧も含む(ただし髪を編んだり、髪型を整えることは除く)。		
						0	介助	部分介助または全介助		
更衣	上半身着 下半身着 靴・靴下 装具		更衣	10			自立	通常着けている衣類、靴、装具の着脱(実用性がある)が行える。		
					5		部分介助	上記事項について、介助を要するが、作業の半分以上は自分で行え、適当な時間内に終了する。		
						0	介助	上記以外		
トイレ関連動作	移乗 着脱 後始末		トイレ動作	10			自立	トイレの出入り(腰かけ、離れを含む) ボタンやファスナーの着脱と汚れないための準備、トイレット・ペーパーの使用、手すりの使用は可。トイレの代わりに差し込み便器を使う場合には便器の清浄管理ができる。		
					5		部分介助	バランス不安定、衣服操作、トイレット・ペーパーの使用に介助が必要。		
						0	全介助	全介助または不可能		
	排便 自制			排便 自制	10			自立	排便の自制が可能で失敗がない。脊髄損傷患者等の排便訓練後の座薬や浣腸の使用を含む。	
						5		部分介助	座薬や浣腸の使用に介助を要したり、ときどき失敗する。	
							0	介助	上記以外	
排尿 自制			排尿 自制	10			自立	昼夜とも排尿自制が可能。脊髄損傷患者の場合、集尿バッグ等の装着・清掃管理が自立している。		
					5		部分介助	ときどき失敗がある。トイレに行くことや尿器の準備が間にあわなかったり、集尿バッグの操作に介助が必要。		
						0	介助	上記以外		
入浴	移動 洗体 操作 浴槽		入浴	5			自立	浴槽に入る、シャワーを使う、スポンジで洗う。このすべてがどんな方法でもよいが、他人の援助なしに可能。		
						0	介助	部分介助または全介助		
移動	安全確認 運搬 Ev 操作		移動	15			自立	介助や監視なしに 45m 以上歩ける。義肢・装具や杖・歩行器(車つきを除く)を使用してよい。装具使用の場合には立位や坐位で ック操作が可能なこと、装着と取りはずしが可能なこと。		
					10		部分介助	上記事項について、わずかの介助や監視があれば 45m 以上歩ける。		
						5	車椅子	歩くことはできないが、自力で車いすの操作ができる。角を曲がる、方向転換、テーブル、ベッド、トイレ等への操作等、45m 以上移動できる。患者が歩行可能なときは採点しない。		
						0	介助	上記以外		
移乗	安全確認 ブレーキ フットレスト 起上立上 ターン		移乗	15			自立	すべての動作が可能(車いすを安全にベッドに近づける。ブレーキをかける。フットレストを持ち上げる。ベッドへ安全に移る。臥位になる。ベッドの縁に腰かける。車いすの位置を変える。以上の動作の逆)。		
					10		最小限の 介助	上記動作(1つ以上)最小限の介助または安全のための指示や監視が必要。		
						5	移乗の 介助	自力で臥位から起き上がって腰かけられるが、移乗に介助が必要。		
						0	全介助	全介助または不可能		
認知・ コミュニケーション	記憶 見当識 理解 表出		階段 昇降	10			自立	介助や監視なしに安全に階段の昇降ができる。手すり、杖、クラッチの使用可。杖をもったままの昇降も可能。		
					5		部分介助	上記事項について、介助や監視が必要。		
						0	不可能	不可能		
		15	10	5	x	x	x	0	総得点	示 す 意 味 点
備考										